

NISSHA 株式会社  
「2021 年 12 月期 Q1 WEB 決算説明会」  
質疑応答の要旨  
(2021 年 5 月 12 日開催)

Q1. メディカルテクノロジー事業の Q2 以降の見通しはどうか。

A1. 回復基調が継続する。新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた待機的手術の再開により医療機器の開発製造受託（CDMO）の製品需要が回復する見込み。同様に減少していた、商業施設向けのビジネスメディアの需要も回復する見込み。

Q2. 産業資材事業の収益性が改善した要因は何か。

A2. 需要が堅調だったことに加えて、2020 年 H1 に実施した収益力強化策による固定費削減や、国内外の工場での生産性の改善努力により収益性が向上した。

Q3. 産業資材事業の Q2 以降の見通しはどうか。

A3. 堅調な需要動向は変わらないとみているが、半導体不足などの状況を踏まえ慎重にみている。

Q4. サステナブル資材の状況はどうか。

A4. 主力の蒸着紙では飲料ラベル向けから食品向けへ用途拡大している。欧州中心に脱プラスチックの潮流により、紙素材である当社の蒸着紙への引き合いが増加している。新製品であるパルプ成形品への引き合いも増えており、欧州で医薬品向けパッケージの量産が開始された。ESG の観点から注目度は高い。

Q5. デバイス事業においてスマートフォン、タブレット以外にどのようなビジネスチャンスがあるか。

A5. 短期的には産業用端末（物流関連）の需要が堅調。車載ディスプレイ向けタッチセンサ

ーも採用が広がっている。当社のタッチセンサーは車載用 OLED ディスプレイとの親和性が高く、海外 OEM のフラッグシップモデルや EV への採用が進んでいる。長期的には医療分野の製品にも事業機会がある。

Q6. その他セグメントの利益が計画よりよかった理由は何か。

A6. 3月末の為替レートが円安で着地したことにより為替差益が発生した。

以上